

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2171100445 | | |
| 法人名 | 有限会社 風 | | |
| 事業所名 | グループホーム「シュアー」 | | |
| 所在地 | 岐阜県多治見市東栄町1-35-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年7月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ静かな環境で、地域の方々と良い関係を保ちつつ、過ごしやすい環境づくりに力を入れています。終末期の取り組みもご家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限り、ご本人の希望に沿うような支援を行っています。コロナ禍で外出の機会が少ないですが、ホーム内でも楽しめるレクリエーションを工夫し、利用者様に活気ある暮らしをしていただけるよう努めています。ピアノやお抹茶、生け花なども楽しんでいただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JgvsvoCd=2171100445-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 岐阜後見センター | | |
| 所在地 | 岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月28日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた山間に立地している家庭的なホームである。建物は天井が高く採光に優れ、リビングの大きな窓からは、庭や周囲の自然が見渡せる。また、利用者は庭に咲いている草花や野菜、果物を見て季節を感じたり、職員と一緒に収穫し、好きな時に果実を手にとることができる。理念である「ゆっくりに、一緒に、楽しく」は職員の合言葉となり、実践に活かされている。若い頃、ピアノを弾いていた利用者やお茶・生け花の習い事をしていた利用者には、設置した電子ピアノで練習してもらったり、月2回、抹茶道具やお茶・和菓子、生花を揃えて、一緒にお茶を楽しんだりしてもらっている。ホームでは、ゆったりとした時間の中で、行事や活動をしたり、天気の良い日には散歩をする等、利用者のライフスタイルに合わせた暮らしを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関ホールに掲示し、理念に基づいたサービス提供を行っています。 | 理念は玄関に掲示し、会議等の機会を捉えて説明を行うことで、職員への周知を図っている。職員は「ゆっくり・楽しく・一緒に」を合言葉に、日々、意識して支援を行っている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 町内会員として、回覧板から地域の情報を得ています。職員全員が地域の方とのあいさつ、立ち話ができる関係を維持しています。 | 日常的に、午後から散歩やドライブに出かけ、気分転換を図っている。近隣の住民から収穫した野菜をもらったり、お返しをしたりする等の交流を通して、顔馴染みの関係ができています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 利用者様と施設外の散歩をし、地域の方と利用者様が直接関わることで、認知症の方のかかわり方など理解が得られるよう取り組んでいます。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染予防対策のため引き続き書面開催しています。感染予防対策委員会、高齢者虐待防止委員会、身体拘束廃止委員会、事故防止委員会で研修を行いサービス向上に活かしています。 | コロナ禍であり、運営推進会議は書面で開催している。書面では運営状況を報告し、意見を聞いたりはしているが、災害時ラインが止まった際に、炊き出しや炭火で調理する方法等のアイデアをいただいたとのことである。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナに感染した職員、濃厚接触者になった職員、家族の休職について相談し、アドバイスをいただきました。 | 市担当課とは、普段から、状況報告をしたり、感染症対策や入居相談、研修等の情報提供を受けたり、助言を得たりする等の協力関係ができています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を行い、全職員に対して研修を行っています。利用者様の安全を考慮しながら、拘束しないケアを提供しています。 | 防犯上、玄関の施錠は行っているが、利用者が外に出たい場合は、制止せず、一緒に外出する等して、利用者の思いに寄り添った支援をしている。また、利用者それぞれに合わせた言葉や態度で接する等して、不適切な支援にならないように配慮している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 2ヶ月に1回研修を行っています。研修の中でチェックリストを用いて、虐待をしていないか再確認し、虐待の芽を摘むようにしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用しておられる利用者様がおります。保佐人と連携しながら、実践で学んでいます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時にご家族様の思いを伺いながら、じっくり時間をかけて説明しています。契約改定時も直接説明し、理解・納得図っています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会制限と解除を繰り返す一年でした。随時LINEや電話で、ご意見ご要望を伺っています。 | コロナ禍であるので、家族の意見として面会希望が多く、状況を見ながら、できる限り、利用者と家族の面会時間が持てるように努めている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常的にショートミーティングを行っています。メモ、申し送りを活用し、提案、課題を把握し、サービス向上につなげています。 | 普段から管理者に気軽に意見を伝えられる関係にある。また、申し送りやミニ会議を行う中で、意見を聞き、業務改善につなげている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の年齢、家族構成に配慮し、可能な限り希望を取り入れた勤務体制で行っています。(駐車場の安全整備、清掃の外注等) | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員全員が介護、看護などの資格を有しています。外部研修にはリモート参加し、基礎研修から段階的に、幅広い知識、情報の習得に取り組んでいます。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域の会議にはリモート参加し、他施設での活動報告を聞き、当施設での実践に向けての話し合いの機会を得ることができました。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人、ご家族からお話を伺い、情報収集、課題対策を検討し、サービス提供方針内容を決め、職員全員で取り組んでいます。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所前の事前面談時や、契約時などにご家族様に直接伺い、センター方式に記入していただきます。ご本人やご家族を知り、信頼関係を築いています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族から思いを伺い、その時に必要なサービスを具体的に検討し、職員全員が実施できるよう話し合いを重ねて実践につなげています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 共同生活の中で、ご本人が能力を最大限活用できるよう、各々に合わせ、洗濯物をたたんだり、食器を拭いたりする作業をしていただいています。利用者様側から「手伝うよ」と積極的に動いてくださいます。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 今年度は直接面会できる期間が短く、ビデオ通話や窓越しでの面会を実施しています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 直接面会の機会は少なかったですが、ドライブに行ったり、日常の会話から思い出を繰り返し聞き、楽しかった記憶をとどめておけるよう支援しています。 | 利用者の中には、馴染みの美容院に行かれる方もいる。日頃の支援の中から、利用者のしたいことを聞き取り、生花やお抹茶、ピアノ等、ホーム内で習い事として行っている。また、その人の生活歴を把握し、馴染みの人や場との関係のエピソードを話し合ったりしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士のトラブルを避けるため、ホールで座る位置に配慮しつつ、同じテーブルで日常作業や食事をし、関わり合いながら過ごせるよう支援しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後も親戚の方の入所申込をいただいたり、相談があったりします。その方の状況を理解した上で対応しています。現在は以前の利用者様の奥様が入所されています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人の希望は随時ご家族にお伝えしています。意思をうまく伝えられない利用者様については、ご家族様にお話を伺ったり、表情などから読み取るよう努めています。 | 入居前に、本人の好きな話題や習い事、趣味等を聞き取った情報をもとに、日常的なコミュニケーションの中で、本人の表情、しぐさや言動を観察し、思いや意向の把握に努めている。 | 職員それぞれに、日常的な支援の場面でコミュニケーションに心がけ、利用者一人ひとりの意向把握に努めている。今後とも、さらなる共通理解を深めるべく、アセスメントシートに記録する等、把握した情報の共有に向けた取り組みに期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入所時にご家族にセンター方式に記入していただいています。また直接お話を伺って、今まで過ごしてこられた環境に近づけるよう努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 利用者様一人一人の生活リズムを理解し、その方に合った生活をしていただいています。心身状態によっては改善できるように生活リズムを変えていただくこともあります。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月に1度モニタリングを実施しています。ご本人やご家族の意見を伺い、職員にはその方のできることやできないことを記入してもらい、現状に即した介護計画を作成しています。 | 介護計画は、利用者や家族の意向を踏まえ、医師、看護師等の多職種の意見を聞き、全職員で話し合いのもと、できることや、やりたいことに着目して、計画書を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の気づきやケアの実践などは個別記録に記入しています。気付いたことはすぐに職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々々のニーズに対応できるよう知識を深めています。身寄りのない利用者様には成年後見制度を利用するよう勧め、外部のお買い物代行サービスを利用する等、ニーズに合った支援に取り組んでいます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ禍で面会や外出に制限があるため、手紙やビデオ通話等で外部とのかかわりを作っています。その中でご家族様から昔の話やご本人の好まれる話をさせていただいています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月1回の定期健診と必要時の個別往診をお願いします。主治医の専門外の科に受診するときはご家族に付き添っていただいています。主治医に自身の思いを伝えたり、質問が的確にできるよう、そばで支援しています。 | かかりつけ医の選択は自由であるが、全員がホームと連携しているクリニックをかかりつけ医としており、定期訪問以外にも電話等での報告や相談が24時間体制できている。また、訪問看護も定期的に来訪している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 月1回正看護師の訪問を受け、情報共有しています。少しの体調の変化も報告し、指導を受けています。施設内の准看護師は個々の服薬内容について、介護職員に理解できるよう説明しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先の医療相談員やご家族様と密に連絡を取り合い、早期退院できるよう情報共有し、対応しています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 予め入所時に看取りに関する説明をし、終末期の前段階には、改めてご家族様の意向を伺い、主治医から直接ご本人、ご家族様にターミナル期についてお話をさせていただき、チームで支援しています。 | 利用者、家族の意向に沿った看取りケアを実施している。訪問看護師による看取りケアについての研修を受け、看護職員を3人配置し、医師、訪問看護師、それぞれ24時間連絡ができる等、医療連携体制ができている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署に赴き、救急救命講習を受けています。動画視聴によるイメージトレーニングも行っています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 電気や水道が使えない生活を想定し、ポータブル電源、仮設トイレ、炭火で調理する備えをしています。利用者様の安心と安全に配慮した避難方法を実践しています。 | 消防署の指導の下、避難訓練を定期的を実施し、避難生活を想定した食事づくりやトイレ対応等、実際の体験を通じて、災害時に起こりうる問題の対応策を検討している。BCP計画も作成し、職員周知に取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 居室で過ごされる方は時々様子を見たり、ホールにおられる方にはリラックスできるよう見守りしています。排尿排便時は小声でプライバシー確保に努めています。共用部分には見守りカメラを設置し、事故防止に努めています。 | 利用者の尊厳を大切に言葉かけや接遇について研修を実施している。言葉で言い表せない人でも、快・不快は必ず示されるので、「見て見ぬふりをしない、要求を無視しない、誇りを損ねない」という考え方の下、利用者一人ひとりを尊重する支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に利用者様の希望を汲み取り、一人一人の性格やその日の気分に応え、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 季節や天気や趣味の話など、利用者様の気持ちに寄り添い、リハビリやレクリエーションを通して、活気ある日常を過ごしていただけるよう支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った衣類選びができるよう、衣装ケース等の整理整頓を行っています。衣類が取り出しやすいように、季節ごとの衣替え、ボタン付け、ほつれ直しをご家族にお願いしています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節行事、誕生日などには、普段とは違う食事を準備し、使用する食器、盛り付けの工夫をしています。 | 食事を楽しんでもらえるよう、誕生日は握り寿司でお祝いしたり、行事食として、季節の旬の野菜を使った食事やおはぎ等を提供したりしている。利用者の身体状況に合わせてム(こんにやく)食品、糖尿病や腎臓病食等も揃え、きざみ等の形状も準備している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 三食と午前のお茶、午後のおやつで、一日の必要量が摂取できるようにしています。毎月の体重測定結果や不定期に実施しているBMI値を基に主食量の調整を細かく行っています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後はスタッフが見守りながら、歯ミガキを行っています。ミキサー食の方には口腔ケアスポンジでケアしています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄時間に気を遣い、できる限りトイレで排泄できるよう自立支援しています。Pトイレがあるので失敗は少ないです。 | 排泄記録から、さりげない誘導を心がけ、トイレでの排泄につながるよう支援している。必要がある場合にはPトイレを併用する等して、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 体を動D95:E100かしたり、水分摂取するなど自然な排便を促しています。便秘が続くときは主治医に相談し、薬を処方していただいています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴の声掛けには気を遣い、前向きな声掛けをし、気持ちよく入っていただけるようにしています。拒否があれば、利用者様と相談し、希望の日時に入れるよう努めています。 | 週2～3回の入浴支援を行っている。浴槽にはリフトがあり、安楽で安心な介助ができています。入浴用の音楽CDを用意し、ゆったりと浸かり、音楽を楽しんだり、職員と談笑したりしている。季節により、近隣から頂いた柚子や菖蒲を使い、湯の香りを楽しんでいただいている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 昼食後に休憩時間を設けています。休まれる方、活動される方様々です。安心できる環境は人それぞれなので、一人一人に合わせた対応をしています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様の体調の変化や様子を見ながら、スタッフや主治医、看護師と相談しながら調整しています。薬に副作用が強い場合はすぐに主治医に報告し、迅速な対応に努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯干し、たたみなどでできる範囲での家事を手伝っていただいています。嗜好品はご家族に用意していただき、ドライブ、散歩、レクリエーションなどで楽しく過ごせるよう努めています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | ドライブ、散歩、庭へ出るなど、それぞれに合わせた工夫をしています。コロナ禍で外出の機会がなかなかないですが、外の空気を吸い、違う景色、馴染みの景色が見られるよう努めています。 | 昨年度に引き続き、今年度もコロナ禍の影響で、外出活動が制限的にならざるを得ない状況にある。例年は外食や買い物等の様々な外出活動を行っているが、現在は、庭の散歩や、近隣へ散歩等の外出支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在お金の自己管理をされている方はおられません。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人やご家族の希望に合わせて、電話やビデオ通話ができるよう支援しています。手紙のやり取りをしておられる方もあります。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用スペースには皆様の作品を飾り、楽しめる空間を作っています。自然光を入れ、室温、湿度の確認をし、快適な空間づくりに努めています。 | 清潔で快適な居場所づくりを目指し、環境を整えている。天井が高く、ドライフラワーや写真、作品が適度に飾られ、テラスから庭へと続く芝生は広く、山々の自然風景を眺望でき、「別荘へ来たみたい」との声もある。換気、室温、湿気への配慮があり、静かでホッとできる雰囲気がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | どこに居たいか、座りたいか希望を伺い、気の合う方同士で座れるように配慮しています。一人一人の心地良い場所を把握し、誘導しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人、ご家族の希望、動きやすさを考慮して家具を配置しています。居室にはご家族やご本人の写真を飾っています。清掃、整理整頓に努め、快適な空間にしています。 | 寝具や衣類箱、タンス、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居場所づくりが行われている。利用者の作品やお孫さんからの折り紙細工等、家族とのつながりが窺われる品物も置かれていて、利用者一人ひとりの個性を大切にしたい居室空間となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレや浴室が分かるように表示しています。分からない方には丁寧に説明して、自立した生活を促しています。 | | |